顕彰慰霊碑（水沼河原）

『偉人小栗上野介
罪なくして此所に斬らる』

■小栗上野介の生涯

和　暦	西暦	事　　項	参　考　事　項
文政10年６月	1827	江戸駿河台で生まれる	
			1853　ペリー浦賀来航
			1858　日米修好通商条約調印
安政６年９月	1859	本丸御目付となる	安政の大獄
11月		豊後守となる	
万延元年１月	1860	遣米使節目付としてアメリカへ。アフリカ、アジアを巡り品川に帰着	1860　咸臨丸、ポウハタン号出航 井伊直弼暗殺
11月		外国奉行となる	1861　対馬事件 アメリカ南北戦争
文久２年６月	1862	勘定奉行勝手方になる 上野介となる	1862　生麦事件
閏８月		江戸町奉行歩兵奉行	
12月		勘定奉行勝手方を兼任する	
文久３年７月	1863	陸軍奉行になる	
元治元年８月	1864	勘定奉行勝手方になる	1864　禁門の変
12月		勘定奉行を免ぜられる 軍艦奉行になる	下関戦争
慶応元年５月	1865	勘定奉行勝手方になる	
９月		横須賀製鉄所鍬入れ式	
２年８月	1866	海軍奉行を兼任する	1866　薩長同盟
３年12月	1867	陸軍奉行を兼任する	1867　大政奉還
４年１月	1868	役職すべてを罷免される	1868　戊辰戦争
３月		倉渕村権田へ移り、東善寺に仮住まい	
閏４月６日		西軍により斬首される	江戸を東京と改める

案　内　図

交通のご案内

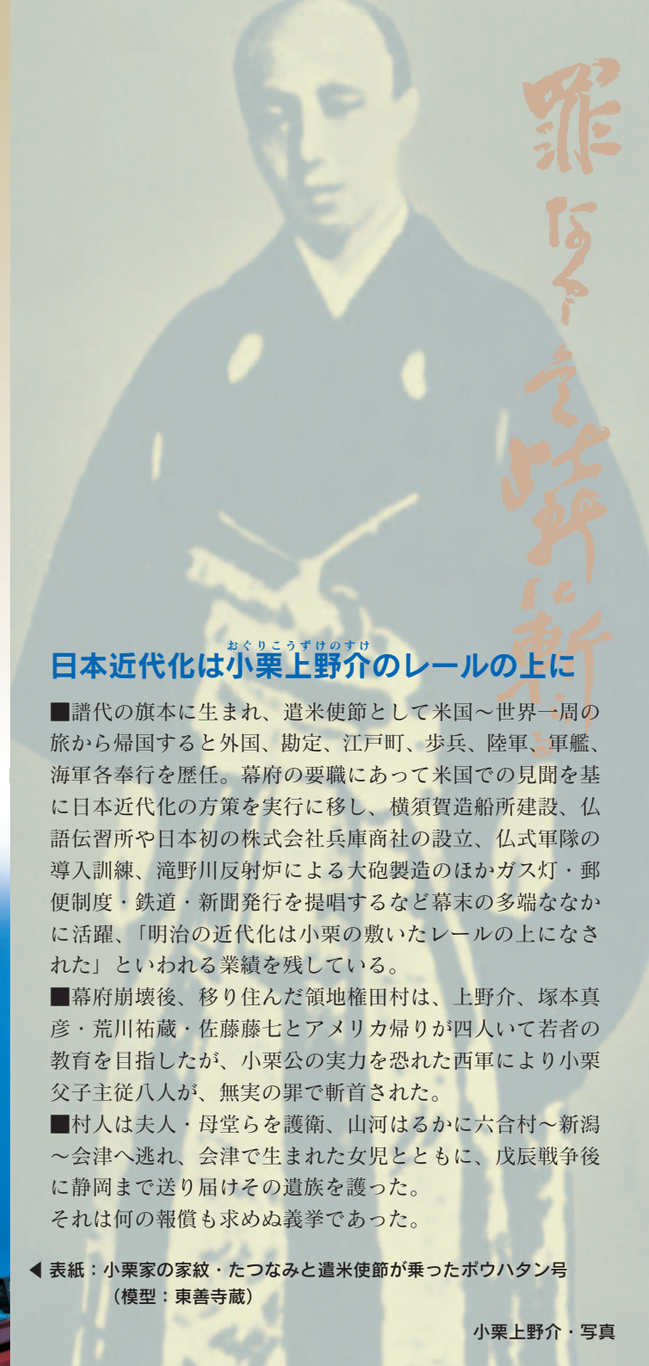
●お車では･･･前橋I.Cより28km　約50分
●電車では･･･高崎駅より路線バス（権田行き）で約60分

2001年（平成13年）９月28日発行
発行　群馬県高崎市倉渕支所
編集　小栗上野介顕彰会
〒370-3492　群馬県高崎市倉渕町三ノ倉303番地
TEL 027-378-3111 FAX 027-378-4024
倉渕支所　地域振興課内
小栗公関連ホームページ
東善寺　http://tozenzi.cside.com/

2009.6.5000A

幕末開明の人
小栗上野介

上州・倉渕の里



日本近代化は小栗上野介（おぐりこうずけのすけ）のレールの上に

■譜代の旗本に生まれ、遣米使節として米国～世界一周の旅から帰国すると外国、勘定、江戸町、歩兵、陸軍、軍艦、海軍各奉行を歴任。幕府の要職にあって米国での見聞を基に日本近代化の方策を実行に移し、横須賀造船所建設、仏語伝習所や日本初の株式会社兵庫商社の設立、仏式軍隊の導入訓練、滝野川反射炉による大砲製造のほかガス灯・郵便制度・鉄道・新聞発行を提唱するなど幕末の多端ななかに活躍、「明治の近代化は小栗の敷いたレールの上になされた」といわれる業績を残している。

■幕府崩壊後、移り住んだ領地権田村は、上野介、塚本真彦・荒川祐蔵・佐藤藤七とアメリカ帰りが四人いて若者の教育を目指したが、小栗公の実力を恐れた西軍により小栗父子主従八人が、無実の罪で斬首された。

■村人は夫人・母堂らを護衛、山河はるかに六合村～新潟～会津へ逃れ、会津で生まれた女児とともに、戊辰戦争後に静岡まで送り届けその遺族を護った。
それは何の報償も求めぬ義挙であった。

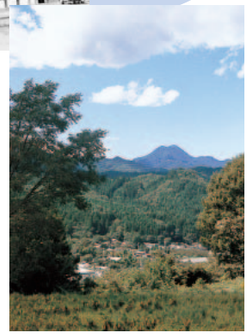
◀ 表紙：小栗家の家紋・たつなみと遣米使節が乗ったポウハタン号（模型：東善寺蔵）

小栗上野介・写真

倉渕の里にみる小栗上野介の史蹟

現存する上野介の居宅

観音山に用水を引き、建てかけたが未完に終わった。
（現都丸薫氏宅・前橋市総社町）



観音山から浅間隠山を望む

小高用水

水に困っていた小高の人々のために、上野介が器械測量した用水は今も小高地区を流れ潤している。
（倉渕町権田）

姉妹観音

塚本真彦の家族はしるべを頼って七日市へ逃れる途中、山中に迷い相間川のほとりで幼い姉妹が命を落とした。川岸に慰霊の姉妹観音が立つ。
（倉渕町岩氷）

東郷平八郎の書

明治45年東郷は、遺族を招き「日本海海戦で勝利したのは小栗さんのおかげ」と礼を述べ、この書を贈った。（東善寺蔵）

東善寺境内・上野介と栗本鋤雲の胸像

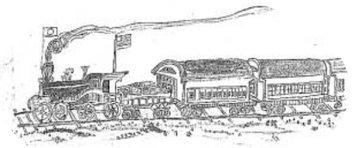
東善寺は小栗家五代政信公を中興開基とする曹洞宗の寺。上野介一家はこの寺に二ヶ月あまり仮住まいして、観音山に居宅建設を進めた。

小栗上野介父子の墓

正面に小栗上野介（右）、又一（左）左右に殉難の家臣らの墓が並ぶ。墓右わきに黒檀が植えられている。（東善寺）

遺品

欧米文化を象徴するアメリカ土産をはじめ、刀、槍、麻裃、小銃などが残されている。（東善寺蔵）



汽車

パナマでポウハタン号を下船、汽車で大西洋側へ出た。（権田村名主・佐藤藤七「渡海日記」挿絵）

黒檀

江戸から運ばれた椿が、黒みをおびた名花を上野介主従の墓のわきに咲かせる。

シャクヤク

江戸から運ばれたシャクヤク。

小栗上野介銅版レリーフ像

昭和５年群馬会館完成記念に、群馬県ゆかりの偉人としてホール入口に飾られた。制作者森村酉三は、高崎白衣観音の原型を制作したことで知られる。
（群馬会館所蔵・前橋市）

日本近代化の礎を築いた小栗上野介

３トン・スチームハンマー

1865年、オランダ・ロッテルダム製。平成９年まで132年間稼働し、「マザーマシン」とよばれる。日本の重工業の源泉ともいうべきもの。（横須賀市）

ワシントン海軍造船所の遣米使節一行

1860（万延元）年４月５日撮影。前列右から二人目が小栗忠順。造船だけでなく大砲、小銃、砲弾などを造り出す総合的軍事工場だった。小栗公は鉄を切る・延ばす・曲げる作業を数人が蒸気機械でたちまち行う様を見て、日本の近代化の道筋をイメージした。

ロアノーク号に乗船する使節一行

パナマから汽車に乗り、鉄道の建設・経営方法を聞いて株式会社の組織を理解。帰国後の兵庫商社や築地ホテルの設立につながった。アスペンウオールでロアノーク号に乗船し、米側に迎えられる図。（米国新聞1860年５月26日）

築地ホテル

上野介の指導による株式会社の手法で民間資本を募って清水喜助（清水建設二代目）が慶応４年に完成させた。